

公表

事業所における自己評価結果(児童発達支援)

事業所名	児童発達支援センターにじいるキッズらいふ			公表日	令和 8年 3月 25日
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点
1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	27人	6人	<p>環境・体制整備 1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。</p> <p>部屋の広さは十分あり、運動あそび時の待機・活動スペースも確保できています。トイレ混雑時には先生方が歌や10カウントでパニックを回避する見事な連携を見せています。必要最低限の設備配置で生活空間を保障し、着替え時に集中できない場合はパーテーションを活用するなど、子どもたちが過ごしやすい環境づくりに努めています</p>	法令基準を満たす適正なスペースがありますが、活動によっては手狭に感じられるため、配置の再検討やウッドスペースの活用により、ゆとりのある空間確保に努めます。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。	23人	11人	<p>環境・体制整備 2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。</p> <p>日々の利用者数やこどもの状態、スケジュール（給食や午睡）に合わせて職員配置を工夫し、他部署と連携して手厚い支援を行っています。ケアが必要な子どもがいる場合や午前・午後の活動内容に応じて応援スタッフが入り、担当者が抱え込まずにヘルプを出せる連携体制が整っています。臨機応変な配置構成により、安心できる環境づくりに努めています。</p>	多様なニーズに応えるため加配やボランティアの活用を目指します。また、常勤と非常勤の連携を密にし、業務分担の見直しや休憩時間の確保など労務環境の向上に努めます。
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構成された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	29人	4人	<p>環境・体制整備 3 生活空間は、こどもにわかりやすく構成された環境になっているか。</p> <p>どのクラスでもこどもに合わせた構造化の配慮が徹底されており、視覚的に分かりやすいようカードを各所に設置しています。安全面に配慮した鍵の開閉の徹底や、バリアフリー化も進めています。また、余計な刺激を減らすためにテラス側のサッシを外したり、パーテーションを効果的に活用するなど、障害特性に応じたシンプルで落ち着いた環境設定を行っています。</p>	一部の建具や設備の老朽化に対し、清掃方法の見直しや修繕計画を立てて対応します。室内の設備等がこどもの危険な足場にならないよう、引き続きガード設置などの安全対策を行います。
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	32人	1人	<p>環境・体制整備 4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。</p> <p>毎日の清掃やアルコール消毒、おもちゃの消毒が徹底されており、職員間でも共有されています。活動内容に合わせてプレイルームや園庭など場所を移動し、こどもたちが動きやすいスペースを確保しています。また、視覚的な刺激を減らすために集中しやすくする配慮や、乾燥する時期には加湿器を設置するなど、清潔で心地よく、安全に過ごせる環境づくりに努めています。</p>	下水の臭気などの設備課題には専門業者と連携して改善を図ります。感覚過敏の特性を持つこどもたちが心地よく過ごせるよう、温度・湿度・音などの環境要因への細やかな配慮を検討します。
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	31人	3人	<p>環境・体制整備 5 必要に応じて、こどもが個別に使用することが認められる環境になっているか。</p> <p>午睡が苦手なこどもには別室での保育を行い、無理強いをせず快適に過ごせるよう職員を配置しています。また、集中して遊び込めるようパーテーションで空間を区切り、体調不良時には保健室を利用するなど、個々の状況に応じた柔軟な対応をしています。活動場所を分けることで、すべてのおこさんが安心・安定して過ごせるパーソナルスペースの確保に努めています。</p>	限られたスペースの中で、より多くのこどもが同時にクルタダンや個別対応を必要とした際にも対応できるように、さらなる工夫を重ねます。
6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	27人	5人	<p>業務改善 6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。</p> <p>改善係を中心に定期的な会議を開き、問題解決や業務効率化に取り組んでいます。日々の支援を振り返るきっかけ作りとしてクラスごとの目標ファイルを用意し、臨時職員も確認できるよう工夫しています。また、預かり当番のボード設置や、口頭・メモを活用した細やかな情報共有を行い、職員全体で改善に向けた意見交換や日々の業務の振り返りを積極的に行っています。</p>	多忙な中でも振り返りの時間を確保するため、ICT活用などで会議を効率化します。非常勤を含む全職員が業務改善に参画しやすくなるよう、意見募集や共有の方法を工夫します。
7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	29人	0人	<p>業務改善 7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。</p> <p>保護者向けアンケートの結果を真摯に受け止め、業務改善や現状の再確認に活かしています。カンファレンスなどを通じて保護者の意向や困りごともしっかりと目を傾け、一人ひとりのニーズに寄り添った支援計画の作成や日々の対応に反映させています。いただいたご意見に対しては素早く改善に向けた行動をとり、より良い支援体制づくりに職員一同で取り組んでいます。</p>	アンケートの集計だけでなく、具体的な改善策の実行と経過報告を丁寧に行います。いただいたご意見に対して、即座に対応できるものと中長期的に取り組むものを明確にし、迅速に対応します。

業務改善	8 職員の見解等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	29人	3人	<p>業務改善 8 職員の見解等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。</p> <p>2024年度</p> <p>Yes: 26 (89.7%) No: 3 (10.3%)</p>	<p>定期的なヒアリングや年2回の関係者会議を通じ、現状把握や目標の再確認を行っています。今年は係を決めて職員間で業務改善に向けた意見を積極的に出し合っています。正規職員と臨時職員が日々の業務の中で分からないことを聞きやすい環境を作り、困った報告があればどうすれば良いか一緒に考えるなど、円滑な意見交換とより良い支援に向けた話し合いを行っています。</p>	<p>会議に参加しにくい非常勤職員の意見も汲み取れるよう、意見箱やデジタルツールの活用を促進します。出された意見へのフィードバックを徹底し、発言しやすい風土を醸成します。</p>
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	24人	4人	<p>業務改善 9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。</p> <p>2024年度</p> <p>Yes: 21 (87.5%) No: 3 (12.5%)</p>	<p>外部からの多様な視点や評価を真摯に受け止め、日々の支援や業務改善に活かしています。指摘を受けた箇所は速やかに改善に努めるとともに、必要に応じて外部の専門職の講義や研修会、講習会に積極的に参加し、職員一人ひとりが自ら関心を持って知識を深めています。客観的な評価を成長の機会と捉え、施設全体の支援スキルの向上に繋がるよう努力しています。</p>	<p>第三者評価の結果や活用方法について非常勤を含む全職員へ周知し、組織全体で質の向上に取り組む意識を統一します。</p>
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	33人	0人	<p>業務改善 10 職員の資質の向上を図るために、法人内で研修を受講する機会が確保されているか。</p> <p>2024年度</p> <p>Yes: 33 (100%) No: 0 (0%)</p>	<p>勤務経歴等に応じた研修機会が年間で組み込まれており、個々の状況に合わせたスキルアップを図っています。スクリーンを用いた分かりやすい研修を心がけるとともに、休憩室に案内をファイリングしていつでも確認できるようにしています。また、職員会議等で研修内容の報告・共有を行い、得られた知識を施設全体で日々の適切な支援に活かせるよう努めています。</p>	<p>シフトにより研修参加が難しい職員に対し、動画研修や資料共有を強化し、学びの機会を均等に提供できる仕組みを整えます。</p>
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	30人	0人	<p>適切な支援の提供 11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。</p> <p>2024年度</p> <p>Yes: 30 (100%) No: 0 (0%)</p>	<p>ごど一人ひとりに合った支援方針を明確にし、基本方針に沿って保護者と連携しながら支援プログラムを作成しています。作成した計画はクラスごとにファイリングし、現在の状況や目標が誰にでも分かりやすいよう掲示しています。様々な職種の職員が意見を出し合いながら情報を共有し、臨時職員も含めた職場全体で共通理解を持って支援にあたるよう工夫しています。</p>	<p>支援プログラムの内容を保護者に具体的にイメージしていただけるよう、園だよりやSNSで写真を用いた分かりやすい発信を工夫します。変更時はパート職員を含め全職員へ迅速に周知するフローを確立します。</p>
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、ごどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	31人	0人	<p>適切な支援の提供 12 個々の子どもに対してアセスメントを行い、児童発達支援計画を作成しているか。</p> <p>2024年度</p> <p>Yes: 31 (100%) No: 0 (0%)</p>	<p>ごどもの側での様子だけでなく、家庭での様子や保護者の困り感にもしっかりと耳を傾けてアセスメントを行っています。専門職、児発管、担任が日々の姿についてこまめにやり取りし、多角的な視点から客観的に分析しています。担当職員が関係者間で常に情報共有を行い、個々の発達やニーズに応じた的確な支援計画を作成・評価し、より良い支援の実現に努めています。</p>	<p>ごどもの成長や変化に合わせてタイムリーにアセスメントと計画の見直しが行えるよう、日々の記録や観察の質を高めます。</p>
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、ごどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、ごどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	29人	0人	<p>適切な支援の提供 13 児童発達支援計画を作成する際、児童発達支援管理責任者だけでなく、ごどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、ごどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。</p> <p>2024年度</p> <p>Yes: 29 (100%) No: 0 (0%)</p>	<p>モニタリングシートの作成や月ごとのまとめなど、ごどもの日々の姿を細かく記録し、保護者のニーズと合わせた計画を検討しています。関係者会議などを通じて、児童発達支援管理責任者だけでなく、担任や関わる全ての職員が意見を出し合い、前回の振り返りと今後の課題を共有しています。ごどもの最善の利益を第一に考え、チーム一丸となって目標に向かって取り組んでいます。</p>	<p>情報の抜け漏れがないよう、情報共有ツールやシートを活用して共通理解を深めます。限られた会議時間でも充実した議論ができるよう、事前の情報・論点整理を効率化します。</p>
	14 児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	30人	1人	<p>適切な支援の提供 14 児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。</p> <p>2024年度</p> <p>Yes: 29 (96.7%) No: 1 (3.3%)</p>	<p>年2回の関係者会議に加え、各クラスの支援会議で定期的に利用児の目標に対する振り返りを行い、支援方法を共有しています。支援計画書は直ちに確認できるようファイリングし、主担任が書面や口頭で丁寧に伝達することで、臨時職員も含めたチーム全体で一貫した支援を心がけています。担当を抱えやすいヘルプを出し合い、全員で共通理解を持って日々の支援にあたっています。</p>	<p>職員の入れ替わり時も一貫した支援を提供できるよう、マニュアル等で支援手順の視覚化を進めます。計画内容だけでなく、日々の微細な変化や対応のコツもこまめに共有する文化を定着させます。</p>
	15 ごどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	28人	2人	<p>適切な支援の提供 15 ごどもの適応行動の状況を、アセスメントを使用する等により確認しているか。</p> <p>2024年度</p> <p>Yes: 26 (92.9%) No: 2 (7.1%)</p>	<p>ブームなどの限定的な行動が見られた際は、家庭での様子をすぐに確認し、専門職や児発管へ相談して支援方法を検討しています。専門職による観察や担任との情報共有を密に行い、日々の行動観察から得られた統計を支援に活かしています。職員間で連携してごどもの状況を的確に把握し、個々の発達に応じたアセスメントを丁寧に丁寧に行うよう意識して取り組んでいます。</p>	<p>アセスメント結果を日々の具体的な遊びや関わり方にどう反映させるか、実践レベルでの検討・共有を強化します。支援方法が最善であるかの確認も、児発管を中心に多職種で行います。</p>

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	31人	0人	適切な支援の提供 16 児童発達支援計画には、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 25人の回答 はい 31 (100%) いいえ 0 (0%)	クラス担任がこどもの発達に沿って計画した個別支援内容を、児発管や関わる他職種と確認し合い、中身の濃い詳しい支援計画書を作成しています。定期的な個別面談を通じて、意向に沿った支援となっているかを常に確認しています。また、移行支援を見据えて、地域小学校の先生方に実際の支援の様子を参観していただく機会を設けるなど、多角的なアセスメントを行っています。	「地域支援・地域連携」について具体的なアクションプランを明確にし、計画の実効性を高めます。併行通園先や学校など関係機関との連携内容を計画に盛り込み、地域支援を強化します。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	28人	1人	適切な支援の提供 17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 25人の回答 はい 28 (98.6%) いいえ 1 (3.6%)	実施したプログラムの様子を担任間でしっかりと確認・振り返りを行い、客観的な観察をもとに新たな活動を立案しています。作業療法士（OT）など専門職からの助言も積極的に取り入れ、クラスの発達段階に沿った内容や個別のやり方を工夫しています。臨時職員も含めて情報を共有し、個別課題と集団活動のバランスを取りながら、チーム全体でより良い活動づくりに励んでいます。	プログラム立案に非常勤職員などのアイデアも積極的に採用し、マンネリ化を防ぐとともにチーム全体の企画力を高めます。ねらいを全職員が理解できるよう、事前打ち合わせの質を向上させます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	29人	1人	適切な支援の提供 18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 25人の回答 はい 29 (96.7%) いいえ 1 (3.3%)	毎月、活動場所（クラス、プレイルーム等）に応じてプログラムを組み、同じ運動でも変化をつけて楽しくゴールできるように工夫しています。また、感触遊びでも多様な素材を用いたり、日々の運動遊びに新しいものを取り入れるなど、毎日様々な活動を考えられています。クラス間研修でアイデアを共有し合い、個々に合った支援を提供できるよう柔軟に対応しています。	同じ活動でもこどもの発達段階に合わせて難易度やルールを調整し、全員が達成感を味わえる工夫を追求します。新規プログラムの開発・導入に向けてブラッシュアップを重ねます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	31人	0人	適切な支援の提供 19 こどもの状況に応じて、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。 25人の回答 はい 31 (100%) いいえ 0 (0%)	個別課題に沿った机上活動の工夫や、集団活動をスモールステップにしてルールを理解しやすくするなど、個々の状況に応じた支援を行っています。同じ活動内容でもこども一人ひとりに合わせて少しずつ変化をつけ、個別支援と集団活動の両方の視点からアプローチしています。苦手なことへの挑戦と成功体験の積み重ねを大切にし、進級後にも生きる丁寧な支援を心がけています。	集団活動の中で個別配慮が必要なこどもに対し、環境設定を工夫して無理なく楽しめる機会を増やします。個別課題の充実と集団での社会性向上の両立を目指し、時間配分や職員配置の最適化を図ります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	30人	1人	適切な支援の提供 20 支援開始前には職員間で、確認し、チームで連携して支援を行っているか。 25人の回答 はい 30 (96%) いいえ 1 (3.2%)	誰が見ても分かりやすいように、配置や一日の流れ、活動内容、役割分担をホワイトボードや紙面に書き出し、掲示物を通じて視覚的に確認できるように工夫しています。日課の確認とともに口頭での情報共有も欠かさず行い、出勤時間の異なる職員や臨時職員にも具体的な支援姿勢・方法を丁寧に伝えています。主担当が日程表を作成し、チーム全体で連携して支援にあたっています。	出勤時間が異なる職員にも確実に情報が伝わるよう、書面やICTツールを活用した申し送り体制を強化します。急な変更時にもスムーズに連携できるよう、チームワーク強化と柔軟な体制づくりを進めます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	20人	10人	適切な支援の提供 21 支援終了後には、職員間で、振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 25人の回答 はい 20 (80%) いいえ 10 (40%)	日々の業務で忙しく時間が限られる中でも、クラス担任間で短時間でも情報を共有し、気付いたことを話し合って翌日の支援に活かすよう努めています。担任と加配それぞれの立場で意見交換を行い、ノートを活用して気づきを書き留めるなど、情報共有の工夫をしています。その日の支援の振り返りを大切に、職員間で「どうすればより良くなるか」を日々模索して取り組んでいます。	勤務時間のずれや繁忙時でも短時間で振り返りができるよう、気づきノートの導入や情報共有の時間を確保します。単なる報告にとどまらず、建設的な改善案が出し合える振り返りの場を目指します。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	28人	2人	適切な支援の提供 22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 25人の回答 はい 28 (92%) いいえ 2 (8%)		記録業務を効率化しつつ質の向上を図るため、書き方研修やフィードバックを行います。職員間で記録を確認し合う機会を増やし、多角的な視点でこどもを理解する材料として活用します。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	30人	0人	適切な支援の提供 23 定期的にモニタリングを、の必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 25人の回答 はい 30 (100%) いいえ 0 (0%)		毎月の集団OTによる専門的な観察を取り入れ、客観的な視点からクラスの様子を把握して柔軟に支援を見直しています。また、保護者面談の前には必ずモニタリングシートを作成し、専門職による定期的な評価も交えながら、こどもの変化を見逃さず適切な計画の見直しを行っています。こども一人ひとりの成長に合わせた丁寧なモニタリングを心がけ、日々の支援に反映させています。
24	児童発達支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	29人	0人	関係機関や保護者への連携 24 サービス担当者会議、こどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 25人の回答 はい 29 (100%) いいえ 0 (0%)		会議で得られた他機関からの情報やアドバイスを、参加者だけでなく現場の全職員に漏れなく共有し、一貫した支援につなげます。	

25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	28人	0人	<p>関係機関や保護者への連携 25 地域の保健、医、保健機関と連携して支援を行う体制を整えているか。28人の回答</p>	看護師や医療コーディネーターを中心に、必要に応じて医療・保健・福祉等の関係機関と手厚く連携を取る体制を整えています。情報提供書の作成を丁寧に、担当職員が密に連絡を取り合うことで、こどもの健康状態や発達状況を正確に共有しています。専門的な視点を取り入れながら、地域全体でこどもを支えるためのスムーズで連携の取れた支援ネットワークを構築しています。	緊急時や医療的ケアが必要なこどもについて迅速かつ的確に連携できるように、日頃からの顔の見える関係づくりと情報更新を徹底します。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	27人	0人	<p>関係機関や保護者への連携 26 併行利用や移行、連携内容等の情報共有と相互理解を図っているか。27人の回答</p>	職員間でしっかりと連携を取り合い、併行通園先の保育所等との情報共有に努めています。インクルージョン推進の観点を大切にし、こどもたちが地域の中で多様な経験を積めるよう、支援内容の相互理解を図るための働きかけを行っています。それぞれの施設での様子を共有し、一貫した支援を提供することで、こどもたちが無理なく集団生活に参加できるようサポートしています。	文書でのやり取りに加え、支援場面の見学やケース検討の場を設けるなど、直接的な担任同士の交流連携を強化します。
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	28人	0人	<p>関係機関や保護者への連携 27 就学時の移行の、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。28人の回答</p>	就学という大きな環境の変化に向けて、移行支援会議などを通じて小学校や特別支援学校としっかりと連携を取り、情報共有を行っています。こどもの特性や必要な配慮、園での支援内容を丁寧に引き継ぐことで、就学先でもスムーズに学校生活が送れるよう支援しています。担当職員が密にコミュニケーションを図り、こどもと保護者が安心して次のステップへ進めるよう努めています。	学校の受け入れ体制を事前に把握し、こどもがスムーズに适应できるよう具体的に実践的な引き継ぎを行います。早期からの移行支援のあり方についても検討を進めます。
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に貢献する取組等を行っているか。	25人	2人	<p>関係機関や保護者への連携 28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に貢献する取組等を行っているか。25人の回答</p>	外部研修や勉強会などを頻りに行い、常に新しい知識を取り入れながら地域の他事業所等と密な連携を図っています。自施設の枠にとらわれず、積極的に情報交換や実践事例の共有を行うことで、地域全体の障害児支援の質の向上に貢献できるよう努めています。日々の支援の中で培った経験を活かし、地域社会全体でこどもたちを温かく環境づくりに向けたり取り組んでいます。	センターとして蓄積したノウハウや実践事例を、地域の事業所向け研修会等で積極的に発信・還元する機会を増やします。
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	28人	1人	<p>関係機関や保護者への連携 29 質の向上を図るため、職員を外部研修に参加させているか。28人の回答</p>	質の高い支援を提供するため、専門職とのカンファレンスの時間を定期的に設け、客観的な助言を日々の活動に活かしています。また、保育日であっても職員が自主的に外部研修や講習会に参加できる体制を整え、正規職員だけでなく施設全体でスキルアップを目指す雰囲気を作っています。専門機関との積極的な交流を通じて、より良い療育のあり方を常に探求し実践に繋げています。	特定の職員だけでなく、すべての職員が学べるシステムづくりに努めます。
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	23人	4人	<p>関係機関や保護者への連携 30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。23人の回答</p>	担当者や正規職員が中心となり、地域の自立支援協議会こども部会や子ども・子育て会議等へ積極的に参加しています。地域の関係機関と顔の見える関係を築きながら、施設としての役割や現状の課題を共有し、地域全体の支援体制の構築に貢献できるように努めています。現場の声を地域の施策に反映させるべく、地域社会の一員として責任を持った連携活動に取り組んでいます。	地域のニーズを察知し、制度の狭間にある課題に対してもセンターとして何ができるかを主体的に考え、行動に移します。
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				外当該	外当該
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	25人	4人	<p>関係機関や保護者への連携 32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。25人の回答</p>	こどもたちが地域社会の中で多様な経験を積めるよう、保育所のこどもたちとの交流保育の機会を設けています。こども一人ひとりの状況や特性に合わせて、無理なく楽しく参加できるように交流の仕方を工夫し、連携を取り合いながら活動を共にしています。地域のこどもたちとの触れ合いを通して、社会性やコミュニケーション能力を育むための貴重な機会として大切にしています。	感染症の状況を見極めつつ交流の機会を増やし、こどもたちが多様な人と関わる経験を積めるよう地域資源の開拓を進めます。地域の園とも工夫して接点を持つ企画を検討します。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	26人	0人	<p>関係機関や保護者への連携 33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。26人の回答</p>	朝夕の送迎時のわずかな時間も大切に、保護者の方と懇話などでも話し合い、最善の支援方法を一緒に考えています。ご家庭での様子は担任が対話の中から丁寧に汲み取り、児発管へ速やかに報告・共有して日々の支援に活かしています。日頃から保護者との信頼関係を築き、こどもの発達状況や課題について常に共通理解を持ちながら、きめ細やかなサポートを行っています。	保護者が話しやすいと感じる雰囲気作りと傾聴の姿勢を全職員で徹底します。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	27人	1人	<p>関係機関や保護者への連携 34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。27人の回答</p>	家族の対応力向上やリフレッシュを図るため、ゆつたリズムなどの有意義な家族参加型の研修会や支援体験を定期的に開催しています。研修やイベントの案内は掲示物等を通して分かりやすくお知らせし、保護者が情報を得やすいよう工夫しています。こどもへの支援だけでなく、ご家族が孤立せずに安心して子育てに向き合えるよう、家族支援の充実にも積極的に取り組んでいます。	保護者が情報を収集しやすいよう工夫し、きょうだい支援や保護者同士のつながりの機会づくりに努めます。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	28人	0人	<p>保護者への説明 35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。28人の回答</p>	施設の運営規程や支援プログラム、利用者負担等について、保護者の方が安心・納得して利用できるよう、丁寧な説明を心がけています。特に契約時や面談の際には、専門用語をできるだけ使わず分かりやすくお伝えするよう努めています。また、臨時職員も含めて必要な情報が漏れなく共有される体制を整え、施設全体で一貫した責任ある対応と信頼関係の構築に取り組んでいます。	契約や説明の際は専門用語を使わず分かりやすい言葉で伝え、保護者が気兼ねなく質問できる雰囲気を作ります。

36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最高の利益の優先考慮の観点から踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	29人	0人	<p>保護者への説明 36 児童発達支援計画を作成する際、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか、27年の回答</p>	<p>子どもの最高の利益と保護者の意思の尊重を第一に考え、日頃から「話したいことがある際はお時間を作ります」とお声掛けし、相談しやすい関係づくりに努めています。児童発達支援計画の作成にあたっては、担当職員と児童がそれぞれの視点で意見をすり合わせ、子どもやご家族の意向をしっかりと確認・反映させながら、一人ひとりに寄り添った温かい支援を心がけています。</p>	<p>子どもの意思表示が難しい場合でも、行動や表情から気持ちを汲み取る努力を続け、本人のサインを支援計画に反映させます。</p>
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	25人	1人	<p>保護者への説明 37 「児童発達支援計画」を示し、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか、27年の回答</p>	<p>児童発達支援計画を作成する際は、担任からの直接的で丁寧な説明を何よりも大切にしています。計画書の内容をただお渡しするのではなく、日々の子どもの様子や成長のステップと結びつけながら、具体的な支援の意図をお伝えしています。保護者の方に「我が子のための計画」としっかりと納得し同意いただけるよう、分かりやすい言葉でコミュニケーションを図るよう努めています。</p>	<p>計画書が形式的にならず「我が子のための計画」と実感できるよう、具体的に分かりやすい記載を心がけます。担任の説明スキル向上を図り、支援の意図が正しく伝わるよう努めます。</p>
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、相談や必要な助言と支援を行っているか。	27人	0人	<p>保護者への説明 38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談や必要な助言と支援を行っているか、27年の回答</p>	<p>ご家庭での様子や保護者の方の表情に常に心を配り、育児の不安や悩みに対して面談やこまめなお声かけを行っています。日頃からの何気ないコミュニケーションを通じて相談しやすい雰囲気を作り、必要に応じて適切な助言や他機関との連携支援を行っています。子どもへの支援にとどまらず、ご家族の精神的な負担を少しでも軽減できるよう、共感的な姿勢で寄り添うよう努めています。</p>	<p>育児不安を抱える保護者に対し、共感的な姿勢で寄り添い、必要に応じて他機関と連携した適切な支援を行います。</p>
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	23人	4人	<p>保護者への説明 39 父母の会の活動を支援する、または交流する機会を設ける等の支援をしているか、27年の回答</p>	<p>保護者同士が悩みを共有し合えるよう、支援体験の実施など交流の機会を設け、父母の会の活動も積極的に支援しています。同じ境遇の保護者同士が繋がることによって、子育ての孤立感の解消や精神的な支えとなるような温かい場づくりを心がけています。保護者の方の負担感にも配慮しながら、無理なく参加できる茶話会やイベントのあり方を継続的に検討し、ご家族全体をサポートしています。</p>	<p>保護者の負担感に配慮しつつ、無理なく参加して孤立感を解消できるような交流機会のあり方を継続的に検討します。</p>
40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	27人	0人	<p>保護者への説明 40 子どもや保護者からの相談、申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか、27年の回答</p>	<p>保護者からの相談や申し入れに対しては即座に対応し、関係する全職員へ速やかに共有する体制を整えています。改善が必要な事項は日誌等に記録して誰もが把握できるようにし、施設全体で統一した迅速な対応を心がけています。小さな疑問や要望にも真摯に耳を傾け、再発防止に向けた取り組みを徹底することで、子どもと保護者が安心して通える信頼される施設づくりに努めています。</p>	<p>苦情に至る前の小さな要望や疑問も汲み取れるよう、日頃のコミュニケーションを大切に相談しやすい風土を守ります。対応内容や改善策は組織全体で共有し、再発防止に努めます。</p>
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	27人	0人	<p>保護者への説明 41 定期的に通信等が発行する、その内容を子どもや保護者に対して発信しているか、27年の回答</p>	<p>連絡アプリ（コドモン）や定期的な通信を活用し、子どもたちの生き生きとした日々の活動の様子や行事予定を保護者へ積極的に発信しています。職員も楽しみに読めるような温かい内容を心がけ、ご家庭とのコミュニケーションツールとして役立っています。保護者の方の都合で様子を具体的にイメージでき、安心してお預けいただけるよう、こまめで丁寧な情報提供を大切にしています。</p>	<p>個人情報に配慮しつつ、子どもたちの姿や事業所の取り組みが魅力的に伝わるよう発信内容や媒体を工夫します。更新頻度を保ち、常に最新の情報を提供できるよう努めます。</p>
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	28人	0人	<p>保護者への説明 42 個人情報の取扱いに十分留意しているか、27年の回答</p>	<p>子どもやご家族の大切な個人情報を取り扱うにあたり、毎年のアンケート実施時の確認や、通信等を配信する際の二重チェックなど、厳重な管理を徹底しています。職員間で個人情報保護の重要性を常に認識し、細心の注意を払って業務にあたっています。SNS等の活用が進む中でも、安心して施設をご利用いただけるよう、コンプライアンスを遵守し適切な情報取り扱いに努めています。</p>	<p>全職員（臨時職員含む）に対して改めて研修や注意喚起を行い、個人情報保護の意識を高く維持します。</p>
43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	27人	0人	<p>保護者への説明 43 障害のある子どもや保護者、意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか、27年の回答</p>	<p>保護者の方が今何に困っているのか、どのような支援を求めているのかを日々の対話からしっかりと把握し、意思疎通を図るよう努力しています。子どもの様子やお願い事をお伝えする際は、ご家庭の状況に配慮しながら慎重かつ丁寧な言葉遣いを心がけています。障害のある子どもや保護者とのコミュニケーションにおいて、思いやりのある情報伝達と信頼関係の構築を大切にしています。</p>	<p>日本語が母国語でない保護者や配慮が必要な方に対しては、ITツール等を活用して情報格差が生まれないよう丁寧なコミュニケーションに努めます。</p>
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	23人	4人	<p>保護者への説明 44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか、27年の回答</p>	<p>八口ワインの行事などで保健所等にご協力いただくなど、少しずつ地域との交流を深める取り組みを行っています。施設内にとどまらず、地域の方々に障害児支援への理解を深めていただけるよう、開かれた施設運営を意図しています。子どもたちが地域社会の温かい目の中で成長できるよう、日常的な関わりを積み重ねながら、地域に根ざした親しみやすい施設を目指して活動しています。</p>	<p>地域の方々にセンターの役割や支援への理解を深めていただけるよう、開かれた施設運営と積極的な広報活動を行います。日常的な交流を積み重ね、地域に根ざした施設を目指します。</p>
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	29人	2人	<p>保護者への説明 45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか、27年の回答</p>	<p>事故や感染症、災害に備え、マニュアルの作成と配布を行うとともに、毎年の見直しで常に最新の情報を更新しています。引き渡し訓練や、研修での嘔吐処理の実践など、発生を想定した具体的な訓練を定期的に行い、職員が実際に動いて確認する機会を設けています。非常勤職員も含めた全職員が緊急時に慌てず適切な対応をとれるよう、実践的なマニュアルの周知と体制づくりに努めています。</p>	<p>訓練の結果や職員の気づきを基にマニュアルを定期的に見直し、形骸化を防ぎます。非常勤を含む全職員が緊急時に迷わず動けるよう、マニュアルの周知とシミュレーションを徹底します。</p>

46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	29人	0人	<p>非常時等への対応 46 業務継続計画（BCP）を、常に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 29名の回答</p>	<p>災害時のあらゆる状況を想定し、安全に避難できるよう避難経路の工夫を行っています。定期的な避難訓練を実施し、子どもたちがパニックにならず安全に行動できるよう、日頃から丁寧な指導とシミュレーションを重ねています。非常災害の発生に備えた業務継続計画（BCP）に基づき、いざという時に子どもたちの命と安全を確実に守れるよう、職員全体で防災意識を高く持って取り組んでいます。</p>	<p>大規模災害時に支援を継続・再開するための具体的な動きについて、図上訓練など実践的な訓練を重ねて対応力を高めます。</p>
47	事前、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	29人	2人	<p>非常時等への対応 47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。 29名の回答</p>	<p>こどもの健康と命を守るため、事前の情報収集に基づき個別の対応マニュアルを作成し、全職員で統一した対応ができるよう備えています。専属の看護師を中心に、服薬や発作時の対応についてカンファレンスや日々の記録を通じてこまめに確認・周知を行っています。医療的ケアが必要な子ども安全に過ごせるよう手厚い体制を整え、保護者の方が安心して預けたいいただける環境を作っています。</p>	<p>こどもの健康状態や服薬内容の変化に対応するため、保護者と密に連携し、常に最新情報を全職員が把握できるシステムを維持します。</p>
48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	30人	1人	<p>非常時等への対応 48 食物アレルギーのあることについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 30名の回答</p>	<p>調理室と密に連携し、医師の指示書に基づく徹底したアレルギー対応を行っています。誤食を防ぐため、アレルギーのある子どもは他のお子さんと机を別々にしたりパーテーションを使用するほか、配膳を分け、介助する職員が混ざらないよう専属で対応するなど細心の注意を払っています。看護師の配置とともに、全職員が生命に関わる重要事項として緊張感を持って毎日の食事支援にあたっています。</p>	<p>アレルギー対応は生命に関わる最重要事項であると再認識し、慣れによるミスを防ぐため、日々の確認手順の遵守と緊張感の維持に努めます。</p>
49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	29人	0人	<p>非常時等への対応 49 安全計画を作成し、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 29名の回答</p>	<p>引き渡し訓練などの実践的な訓練を定期的に実施し、万が一の非常時を見越した事前の対応策を講じています。日々の保育活動の中でも「安全」を全ての支援の土台として捉え、施設内の環境点検や危険予知に努めています。安全計画に基づき、子どもたちが怪我なく安心してのびのびと過ごせるよう、職員全体で高い防火・安全意識をもちながら、安全管理が十分された環境での支援を行っています。</p>	<p>「安全」が全支援の土台であることを共有し、日々の環境点検やリスク予知の感度をさらに高め、安心して過ごせる環境を守ります。</p>
50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	26人	1人	<p>非常時等への対応 50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 27名の回答</p>	<p>こどもの安全確保においてご家庭との連携は不可欠と考え、安全計画に基づく事業所の取り組み内容や非常時の対応方法について、保護者の方への周知を図っています。日頃からの情報提供を通じて、施設と家庭が一体となってこどもの命と安全を守る体制づくりに努めています。臨時職員も含めて安全対策の共有を徹底し、保護者の方に安心感を持っていただけるよう丁寧な対応を心がけています。</p>	<p>事業所での安全対策だけでなく、家庭での防災や安全対策についても情報提供を行い、連携してこどもの安全を守る体制を作ります。</p>
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	28人	2人	<p>非常時等への対応 51 ヒヤリハットを事業所内、再発防止に向けた方策について検討しているか。 29名の回答</p>	<p>どんなに小さなヒヤリハット事案でも、朝会や毎朝の申し送りファイルなどの書面を通じて速やかに全職員（臨時職員含む）で情報共有を行っています。事故防止に向けた職員間の意識は非常に高く、報告に対して素早く対応し、再発防止に向けた具体的な方策を話し合っています。個人のミスではなく施設全体の課題として前向きに改善策を出し合い、安全で安心な環境づくりに努めています。</p>	<p>ヒヤリハットを個人のミスではなく仕組みの課題として捉え、職員全員で前向きに改善策を出し合えるポジティブな安全文化を醸成します。</p>
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	28人	1人	<p>非常時等への対応 52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 28名の回答</p>	<p>虐待防止に向けた研修を数回にわたりしっかりと実施し、職員の意識向上と知識のアップデートを図っています。研修を通じて日頃の自分自身の関わりや支援のあり方を振り返り、職員同士で話し合う機会を設けるよう努めています。不適切なケアを未然に防ぐため、お互いの気づきを伝え合える風通しの良い職場環境を作り、こどもの人権を尊重した温かく適切な療育を提供できるよう取り組んでいます。</p>	<p>不適切なケアを早期に防ぐため、職員同士が気づきを伝え合い修正できる風通しの良いチームを作り、セルフチェックリスト等を活用し、自身の言動に気づけるシステムを構築します。</p>
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	28人	1人	<p>非常時等への対応 53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。 28名の回答</p>	<p>身体拘束に関する計画を立案し、対応に変更が生じた際は保護者面談などで速やかに連絡・説明するよう徹底しています。何が身体拘束にあたるのか、日々の活動の様子と照らし合わせながら職員間で勉強会や研修を通じて自覚を促しています。「身体拘束は行わない」ことを原則とし、どうしても必要な場合のルールを組織的に共有し、こどもの尊厳を守るための支援技術の向上に日々努めています。</p>	<p>「身体拘束は行わない」を原則とし、背景要因の分析や環境調整、関わりの工夫で解決できるよう、チーム全体で支援技術の向上と全職員への周知徹底に努めます。</p>